

当院をご利用される皆さまへ、 新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

引き続き、多大なご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。
各お知らせの詳細は、右のQRコードよりご確認ください。

発熱症状で
受診される方へ



面会について



八十川医師がDMATコーディネーター資格を取得しました

DMATコーディネーターは、大災害発生時に被災地での人命救助だけでなく、自治体や医療機関等の本部に入り、医療・介護・福祉に関するニーズの把握と、支援チームや物資、搬送手段、治療療養場所の調整を行い、被災地住民が支援なく生活できる環境を整えます。平時より研修を重ね、地域の災害医療に貢献できるよう尽力します。



「美濃国地域医療リンケージ」に羽島市が新たに参加しました

2025年12月22日(月)に西館大会議室にて、地域医療連携推進法人「美濃国地域医療リンケージ」に羽島市が新たに加わることを受け、記者会見を行いました。美濃市、海津市医師会、社会医療法人蘇西厚生会の3法人により設立し、医療連携の推進に取り組んでまいりました。羽島市が新たに加わることで、より一層の医療体制の充実と強化を図り、地域医療のさらなる発展を目指してまいります。



「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展のご案内

下記の日時で「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展を開催いたします。遺伝性がん当事者の家族や仲間、医療、社会へ向けたメッセージをはじめ、当事者自身の姿や手紙にまつわるゆかりの品などが紹介されています。

詳細はこちら



●日時：2026年1月21日(水)～2月17日(火) ●場所：松波総合病院 北館南館連絡通路、北館ロビー

【医療・介護関係者対象】第25回岐阜南NST研究会のご案内

下記の日時で「第25回岐阜南NST研究会」を開催いたします。事前申し込みは不要です。連携医療機関・施設の方でもお気軽にお越しください。

詳細はこちら



●日時：2026年2月19日(木)17:45～19:30 ●場所：松波総合病院 西館4階 大会議室

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

理念

私たちは、地域中核の社会医療法人として
地域住民の皆様へ、安全で質の高い医療・
福祉を効率的かつ継続的に提供する。

基本方針

- ・私たちは、医療における安全を重視し、患者様中心の根拠に基づいた医療・福祉サービスを提供します。
- ・私たちは、患者様や利用者様のプライバシーを守り、権利を尊重します。
- ・私たちは、経営の安定と組織の活性化を図り、職員の働きがいと生活が安定し向上するよう努力します。

〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1

TEL:058-388-0111(代)

FAX:058-388-4711

<https://www.matsunami-hsp.or.jp>



友だち登録をお願いします！

追加方法①
ID検索

「友だち追加」から
「@120mg」で検索
してください。

追加方法②
QRコード

「友だち追加」から上記
のQRコードを読み込んで
ください。

特集

眼科

「見える」を維持できるように
—眼科で行う主な検査・硝子体手術

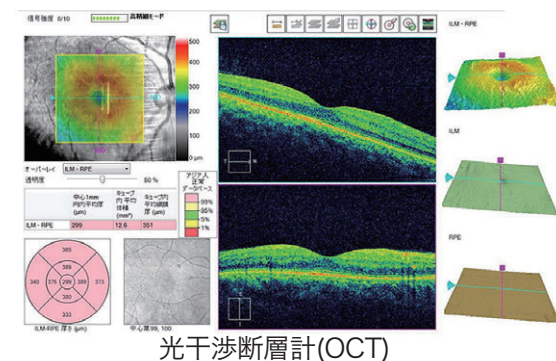




眼は人間の五感の8割を占めると言われる視覚を担う重要な組織です。視覚が障害されると日常生活の質が下がり、転倒・骨折や認知症などのリスクが高まります。眼科ではさまざまな検査や治療を行って「見える」を維持できるようサポートいたします。

眼科で行う主な検査

- 視力：レンズで矯正してどの程度見えるか測定します。
- 眼圧：目の硬さを測定します。正常は21mmHg以下です。
- 眼底検査：瞳孔を開いて(散瞳)眼の奥を観察します。
- 眼底写真：無散瞳で眼の奥の写真をとります。
- 視野検査：緑内障など視野が欠ける疾患で行います。
- 光干渉断層計(OCT)：網膜の断面図を撮影します。加齢黄斑変性や黄斑浮腫などの経過観察に有用です。



眼底写真



眼科 紹介ページはこちら



硝子体手術

当科での手術は、白内障手術と硝子体手術をメインに行っております。硝子体手術は大きな病院であればどこでも施行しているわけではなく、熟練した医師が執刀する大きな手術のひとつです。

硝子体は眼球容積の80%を占めるコラーゲン線維と水などで構成される透明な組織です。加齢などにより硝子体が網膜を引っ張ると網膜に穴が開いて網膜剥離や硝子体混濁が起こります。また、増殖糖尿病網膜症によって発生した新生血管が破綻すると硝子体出血を発症したり、増殖膜が形成されると牽引性網膜剥離が起こります。硝子体手術は顕微鏡下で白目に3,4か所器具を入れるところを作成し、ライトガイドで眼内を照らしながらカッターで硝子体線維を切除して吸引します。その後網膜前膜や増殖膜があれば除去し、黄斑円孔であれば網膜の一番内層の内境界膜を剥離します。手術終了時に硝子体腔にガスを入れることがあり、その場合術後うつむきなどの体位を維持していただく必要があります。

硝子体手術を行う疾患

黄斑上膜(網膜前膜)、黄斑円孔、増殖糖尿病網膜症、硝子体出血、裂孔原性網膜剥離など

糖尿病に罹患されている方へ

糖尿病があると網膜症を発症することがあります。アジア地域では糖尿病患者の網膜症有病率は19.9%といわれています。糖尿病網膜症は日本人の失明原因の3位となる怖い病気です。かなり進行しても視力が保たれることが多く、ちょっと見にくくなって眼科受診したところ手遅れになっていることも少なくありません。糖尿病と診断されたら定期的に眼科も受診するように心がけてください。



担当医師プロフィール



眼科部長

石澤 聡子
(いざわ さとこ)

【専門分野】

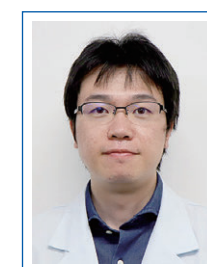
- ▶ 網膜硝子体手術
- ▶ 白内障手術

【認定資格】

- ・ 日本眼科学会：専門医

【所属学会】

- ・ 日本眼科学会
- ・ 日本眼科医会
- ・ 日本網膜硝子体学会
- ・ 日本眼科手術学会



眼科医員

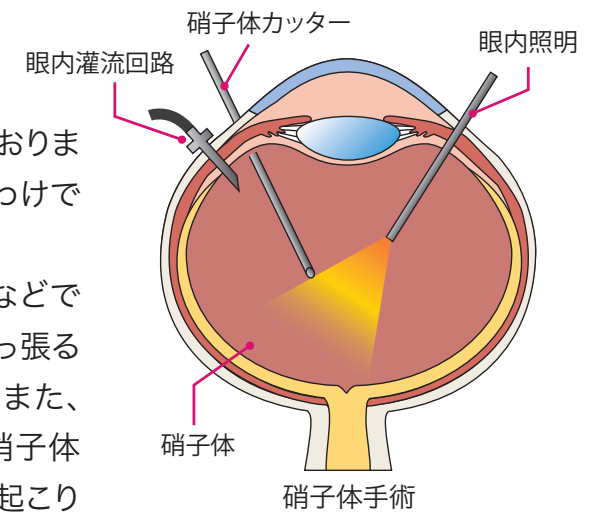
金田 賢征
(かねだ たかゆき)

【専門分野】

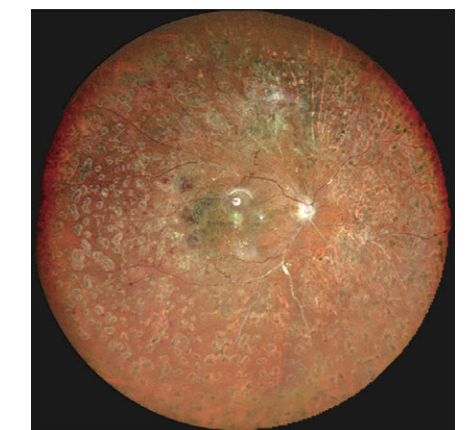
- ▶ 眼科一般

【所属学会】

- ・ 日本眼科学会



増殖糖尿病網膜症 (術前)



増殖糖尿病網膜症 (術後)

特集 高齢者に対するがん薬物療法について

高齢者に対するがん薬物療法について

2025年の国内の人口に占める高齢者の割合は、65歳以上が29.4%、75歳以上の割合が18%（国民の約5.5人に1人が75歳以上）と、世界でも類を見ない水準に達しています。これに伴い、高齢のがん患者さんも増加し、がん薬物療法を受ける機会が増えています。

高齢になればなるほど、臓器や身体機能の低下、複数の併存症の存在、社会的問題（独居、老々介護、通院困難）、栄養状態、認知機能の低下や加齢に伴う気分障害など、様々な問題を抱えていることが多くなり、若年者同様に元気な方から寝たきりの方まで千差万別で、個人差が大きくなります。

「**高齢者機能評価 (CGA: Comprehensive Geriatric Assessment)**」は、高齢者の身体・精神・社会的側面を多面的に評価し、個別ケア計画を立てるための総合的な評価手法です。具体的には、日常生活動作 (ADL)、手段的ADL (IADL)、認知機能、精神・気分、社会的背景（環境・経済）などを評価し、生活の質 (QOL) の向上や治療方針決定に役立てられ、多職種が連携して実施するものです。

高齢者機能評価とは？

がん領域における「高齢者機能評価 (CGA)」は、患者さんの年齢（暦年齢）だけで治療方針を決めるのではなく、身体的・精神的・社会的な能力を総合的に評価し、その人にとって最も適切な治療（治療の強度調整）を提供するための評価方法ですが、一度の評価におよそ2時間を要することが難点です。そのため、数分で評価可能なCGAの**簡易スクリーニングツール**がいくつか提唱されており、その中でも**Geriatric 8 (G8)**は現在国内の腫瘍領域で最も多用されている手法です。G8は、8つの質問項目から構成されており、0点から17点満点で患者さんを評価し、14点以下の場合を“高齢者機能に問題あり”と判断します。

高齢者機能評価 G8 Screening tool

質問項目	該当回答項目	点数
A	過去3か月間で食欲不振、消化器系の問題、そしゃく・嚥下困難などで食事量が減少しましたか	0: 著しい食事量の減少 1: 中程度の食事量の減少 2: 食事量の減少なし
B	過去3か月間で体重の減少はありましたか	0: 3kg以上の減少 1: わからない 2: 1～3kgの減少 3: 体重減少なし
C	自力で歩けますか	0: 寝たきりまたは常時車椅子を常時使用 1: ベッドや車いすを離れられるが、歩いて外出はできない 2: 自由に歩いて外出できる
E	神経・精神的問題の有無	0: 高度の認知症または鬱状態 1: 中程度の認知障害 2: 精神的問題なし
F	BMI値	0: 19未満 1: 19以上 21未満 2: 21以上 23未満 3: 23以上
H	1日に4種類以上の処方薬を飲んでいますか	0: はい 1: いいえ
P	同年齢の人と比べて、自分の健康状態をどう思いますか	0: 良くない 0.5: わからない 1: 同じ 2: 良い
年齢		0: 86歳以上 1: 80歳～85歳 2: 80歳未満
合計点数 (0～17)		



担当医師プロフィール



血液・腫瘍内科 副部長 兼 血液・腫瘍センター 副部長 兼
がんセンター がんゲノム医療部門 遺伝カウンセリング室

李 心
(り しん)

【専門分野】
▶血液内科

【認定資格】

- ・日本内科学会：認定内科医、総合内科専門医、指導医
- ・日本血液学会：血液専門医、指導医、評議員
- ・日本臨床腫瘍学会：がん薬物療法専門医、指導医
- ・日本感染症学会：ICD制度協議会認定ICD



松波総合病院
血液・腫瘍内科
紹介ページ

当院におけるG8活用の推進

当院では、がん薬物療法の開始時および治療過程で、高齢がん患者さんに対して簡易的な高齢者機能評価スクリーニングツールである**Geriatric 8 (G8)**を用いた評価を経時的に行い、その結果に基づき栄養チームやリハビリチームの介入を積極的に行い、患者さんの治療継続に繋げる試みを行っています。

具体的には、南館1階の薬物療法センターを利用する70歳以上の高齢がん患者さんを対象に、初回および以後の利用時に看護師がG8を経時的に評価しています。G8が14点以下の場合は、原則として栄養またはリハビリチームの介入を勧めています。対象患者さんの約8割が、G8が14と評価され、その約半数が多職種支援を受けており、**G8改善への寄与が期待**されています。

本取り組みにより、医療者間で患者さんの課題を共有し、早期から多職種によるチーム医療を提供することで、高齢がん患者さんへのきめ細かな支援が可能となります。さらに、G8などの客観的評価を経時的に行うことで、患者さん自身が課題を認識し、健康状態と向き合う契機にもなります。こうした実践は、医師・看護師に加え、薬剤師、栄養士、理学療法士、事務職員など多職種の「チーム力」によって支えられています。今後も地域がん診療連携拠点病院として、この「チーム力」を活かし、地域のがん診療に貢献してまいります。

薬物療法センターの
患者さんを対象に
G8による評価を行う



G8が14点以下の
患者さん



↑ 介入

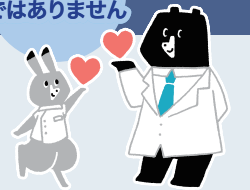


栄養チーム

リハビリチーム

HIV診療のご案内

HIV=AIDS
ではありません



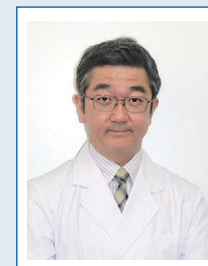
松波総合病院では、HIV感染症に対する診療を行っています。初診・再診ともに対応可能で、プライバシーに配慮した個室での診療を行っております。当院のHIV診療は、日本エイズ学会認定の専門医・指導医による適切な診療を中心に、経験豊富な看護師・薬剤師・相談員が連携し、チームで患者さんを支えます。

HIV感染症は、いまだに社会的な誤解や偏見が残る病気ですが、適切な治療を継続することで、他の人に感染させることなく、非感染者と同等の寿命が期待できることがわかっています。「もしかして…」と不安を感じたときこそ、ひとりで抱え込まず、まずは検査を受けてみませんか。

私たちは、安心してご相談いただける環境を整えてお待ちしております。



担当医師プロフィール



病院長代理・院内感染対策室 室長 兼 がんセンター センター長

鶴見 寿
(つるみ ひさし)

【専門分野】

- ▶血液疾患
- ▶HIV
- ▶臨床腫瘍学

【認定資格】

- ・日本内科学会：認定内科医、総合内科専門医、指導医、評議員
- ・日本臨床内科医会：臨床内科専門医
- ・日本血液学会：専門医、指導医、評議員
- ・日本臨床腫瘍学会：がん薬物療法専門医、指導医、協議員
- ・日本がん治療認定医機構：がん治療認定医
- ・日本造血・免疫細胞療法学会：認定医

- ・日本エイズ学会：認定医、認定指導医
- ・日本消化器内視鏡学会：専門医
- ・日本輸血・細胞治療学会：東海支部評議員
- ・ICD（院内感染対策専門医療従事者）
- ・日本骨髄腫学会：代議員

当院放射線診断科竹田太郎医師が国際画像診断コンテストにおいて世界チャンピオンに選出されました。

国際画像診断コンテスト「Diagnosis Please」とは

画像診断分野で最も権威ある学術誌の1つ『Radiology』が主催する国際画像診断コンテストです。当院の竹田太郎医師が国際部門年間最多正解者(世界チャンピオン)の1人に選出されました。

本年度は日本人2名が同時に世界チャンピオンを受賞しており、日本の放射線科医の画像診断能力の高さを国際的に証明する快挙となりました。

放射線診断医とは

CT・MRI・レントゲンなどの画像を読み解き、病気の診断を行う専門医です。主治医の先生とともに画像診断のダブルチェックを担当し、より正確で安全な医療の提供に努めています。

医学誌「Radiology」に掲載された
当院医師の受賞記事をご覧ください。



担当医師プロフィール



放射線診断科副部長
竹田 太郎
(たけだ たろう)

【専門分野】
▶画像診断全般

【認定資格】

・日本医学放射線学会:放射線科専門医・放射線診断専門医

【主な入賞歴】

・画像診断誌Case of Month 年間成績優秀者4回
・腹部放射線学会イメージインタープリテーション入賞3回
・日本放射線科専門医会ミッドサマーセミナーイメージインタープリテーション2回
・日本医学放射線学会総会・秋季臨床大会イメージインタープリテーション優秀賞8回

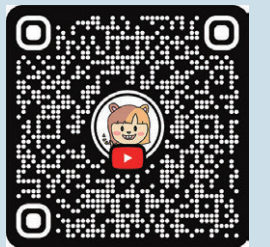
このたび画像診断コンテストで世界最多正解者に選ばれました。長年の挑戦の結果ですが、私個人の力だけで得られたものではありません。院内外の先生方との日々の議論、全国の放射線科医仲間との切磋琢磨のおかげです。この経験を活かし、より質の高い画像診断を皆さまにお届けしてまいります。

Topic

「市民公開講座 2025」を開催しました

2025年11月8日(土)に開催した市民公開講座には、約70名の方にご参加いただきました。第1部では消化器内視鏡科部長の中西孝之医師による「がんにならないための健康習慣と検診の秘密」について、第2部では総合内科部長の岩田暁医師が「成人のワクチンUPDATE」について講演を行いました。

講演のアーカイブは、松波総合病院YouTubeチャンネルにて公開しております。



松波総合病院
YouTubeチャンネル

Topic

羽島郡の中学校 2 校でがん教育講演会を実施

今年度、羽島郡内の2つの中学校において、当院の医師が「がん教育講演会」を行いました。この取り組みは、岐阜県がん教育総合支援事業の一環として、生徒ががんについて正しく理解し、将来にわたって適切な態度や行動をとれるようになることを目的に実施されたものです。

講演会では、医師ががんの基礎知識や早期発見の重要性、日常生活でできる予防について分かりやすく説明しました。

講演会後には「がんについて正しい知識を持つことの大切さが分かった」、「家族にも伝えたい」といった声も聞かれ、学びの深まりが感じられました。

【2025年11月19日 岐南中学校】
(感染症対策の為、放送室からのオンラインで実施)
講師:乳腺外科部長 森 美樹 医師



【2025年12月11日 笠松中学校】
講師:病院長代理 鶴見 寿 医師
血液・腫瘍内科副部長 李 心 医師



ベストスタッフ・オブ・ザ・イヤー

-Best Staff of the Year-

当院では毎月、ベストスタッフ・オブ・ザ・イヤー表彰を行っています。各所属で活躍したスタッフを推薦し、表彰します。今回は2025年11月、12月に表彰された職員をご紹介します。

11月 チーム活動部門

介護老人保健施設
看護師 岩田さん

この度はこのような栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。今回の受賞は、スタッフの皆さんのおかげだと思っております。今後も互いに協力し、仕事に取り組んでいきたいと思ひます。

11月 実践部門

医事課(クリニック)
事務 久世さん

この度は栄誉ある賞をいただき大変嬉しく思います。周りの方々の指導、協力のもと受賞することができ感謝しております。今後もさらに一層努力を重ね、スタッフ同士協力し業務に励みます。

11月 委員会活動部門

北館4階西病棟
看護師 鈴木さん

この度は、このような賞をいただきありがとうございます。病棟スタッフの皆さまのご指導の下、委員会活動の充実を図れたと思っています。今後も、活動で得たことを活かして、患者さんへ安全な医療を提供できるように頑張ります。



12月 実習指導部門

介護老人保健施設
介護福祉士 磯野さん

この度は栄誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。今後来る介護現場の課題を乗り越えるべく、これからもスタッフと協力して働きやすく、働き続けられる環境に努めて病院に貢献できるよう頑張りたいと思ひます。

12月 新人部門

救命救急センター
看護師 大竹さん

このような賞をいただきありがとうございます。日々ご指導くださる師長をはじめ、ERの仲間感謝しています。これからも初心を忘れず看護に向き合っていきたいと思ひます。

12月 実践部門

ICU 看護師
藤沢さん

この度は栄誉ある賞をいただき大変嬉しく思っております。今後もより良い実習を提供できるように周囲のスタッフと協力しながら、未来の看護育成に貢献できるように尽力してまいります。



1月 チーム活動部門

臨床工学科 臨床工学技士
吉加江さん

この度は栄誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。今回の受賞は私だけの力ではなく、看護師やCEの皆さんの助けがあってこそだと思ひます。この受賞を励みに医療の未来を担う人材の育成に微力ながら尽力して参りたいと思ひます。



受賞おめでとうございます！



MEDIA TOPICS メディアトピックス

独居の高齢者宅 安全に

笠松町が松波総合病院、岐阜医療科学大と連携



笠松町は2026年度、1人暮らしの高齢者の不慮の事故を防ぐため、危険箇所を早期に見つけて対策する「すまいる安心診断」を始める。町内で高齢者の独居家庭での火災や転倒事故などが後を絶たないことから、民間病院や大学と連携し住み慣れた自宅に暮らせるよう手助けする。

町によると、同町の人口に占める65歳以上の割合は25年度が27・2%。町内では24年12月と25年3月に続けて高齢者の独居世帯で火災が発生し、25年3月の火災では住民の90代の女性が多かった。町内ではほかにも室内で転倒したことから介護認定につながったケースや、大量の物が室内に放置される「ごみ屋敷」問題などがあるという。

高齢者を地域一帯となつて支えるため、町は昨年12月に松波総合病院(同町)、岐阜医療科学大(関市)と包括連携協定を締結した。専門的な視点で高齢者宅を点検し、事故の要因を早期に見つける。

町地域包括支援センターが選定し同意を得た家庭に、センター職員と町防災担当、病院からは理学療

火災や転倒の危険箇所点検

笠松町は2026年度、1人暮らしの高齢者の不慮の事故を防ぐため、危険箇所を早期に見つけて対策する「すまいる安心診断」を始める。町内で高齢者の独居家庭での火災や転倒事故などが後を絶たないことから、民間病院や大学と連携し住み慣れた自宅に暮らせるよう手助けする。

(安井真由子)

2026年1月6日岐阜新聞

笠松中生 愛知・岡崎の生徒と



けが人役の手当てをする生徒たち
＝笠松町田代の松波総合病院で

けが人を救え！体験で交流

笠松町の笠松中学校と愛知・岡崎の生徒が防災について学習しながら交流する「MISOX Nカサマツ防災×冒険×友情の大作戦」が22日、2日間の日程で始まった。笠松中3年生17人と南中の1、2年生6人が町内数カ所の会場を巡り、ゲーム形式の講座で学ぶ。

初日は、同町田代の松波総合病院で「医療&護身術」の講座からスタート。両校混合の4班に分かれた生徒たちは、消防士の指導でビニール袋や段ボールで骨折した部位を固定する技術や、けが人を毛布にくるんで運ぶ方法を学んだ。

最後は各班の1人けが人に見立てて処置の適切さや素早さを競うレースに挑戦。号令とともにけが人役の駆け寄り、「骨折」「出血」と書かれたテープのある部位を処置して安全な場所に運んだ。

病院柔道部の指導者から、不審者に腕をつかまれるなどした時に逃げる護身術を学んだり、学校で地震にあった際の対処を考える講座を受けた。23日は、乗馬クラブでのホースセラピー体験などがある。

南中2年の加藤羽夏さん(14)は「仲良くなれる开心的だったけど、講座で触れ合うちにうち解けたと話した。県外の子どもたちと交流できたのは、消防士の指導で骨折した部位を固定する技術や、けが人を毛布にくるんで運ぶ方法を学んだ。

2025年11月23日中日新聞



大規模災害を想定した傷病者の対応確認。笠松、松波総合病院、笠松、松波総合病院で1日、大規模災害を想定した訓練が行われ、病院スタッフら100人が有事の対応手順を確認した。

南海トラフを震源とする地震が起き、町内で震度7を観測したという想定。傷病者役の人が次々と病院に運び込まれる中、スタッフたちは治療の優先順位を決める「トリアージ」を行った。自力歩行ができるかやけがの程度などを診て重症と判断した傷病者は車いすや専用のスペースに移動させて治療にあたった。

訓練では、傷病者の状況を共有できる病院独自のアプリを初めて活用。傷病者の優先順位や治療の状況などの入力方法も確認した。

訓練を統括した八川雄図救急総合診療科部長は「情報共有の遅れは、患者対応の遅れにつながる。災害時でも迅速に動けるようにしたい」と話した。

(尾林太郎)

2025年11月6日中日新聞

ペットおあずかりセンターだより

「ペットおあずかりセンター」おあずかり第2号として、ジャックラッセルテリアの「ちびちゃん」5才の男の子をお迎えしました。

飼い主さんは、以前テレビで放映された当院の「ペットおあずかりセンター」のニュースを偶然目にされ、「何かあったらここにお願いしよう」と決めてくださったそうです。当院を受診され、入院が決まったとき、ちびちゃんのお預け先に悩むことなく、スムーズな治療開始に繋がりました。

おあずかり当初は飼い主さんと離れた環境に少し落ち着かない様子も見られましたが、次第に新しい環境に慣れ、今ではお腹を見せてくれたり、「投げて」とおもちゃを持ってきてくれたり、元気いっぱい遊び、たくさん甘えてくれるようになりました。

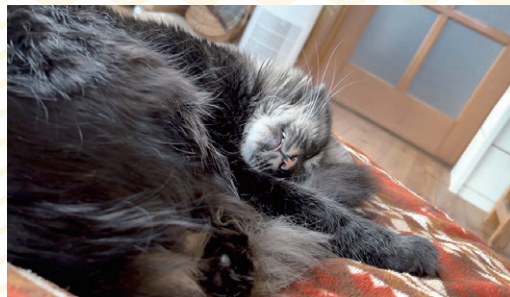
当センターでは整った環境のもと、スタッフが愛情をもってペットをおあずかりしています。毎日、ペットの観察日記をつけ、日々の様子や体調の変化に気を配りながら、丁寧なケアを行っています。「ペットの存在が医療を受ける障壁になってはならない」そんな思いからこの「ペットおあずかりセンター」は開設されました。どんな小さなことでも構いません。お気軽にお問い合わせください。

*現時点でのお預かりは犬のみとなっています。

[お問い合わせ先]

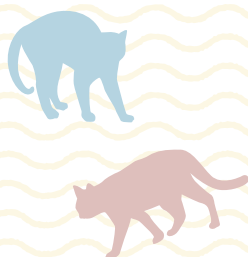
ペットおあずかりセンター松波総合病院
電話番号:058-388-0111(内線:51406)
メール:pethotel@mghg.jp

第一種動物取扱業 第10328号
登録の年月日 令和7年3月28日
有効期限の末日 令和12年3月27日
第一種動物取扱業の種別 保管 動物取扱責任者 合澤昌美



【名 前】
アルくん 男の子 2才

【飼い主】
事務 奥田さん



ハリー・ポッターの校長、アルバス・ダンブルドアからとってアルくんと名付けました。

アルくんは甘えん坊の2才の男の子。朝4時の1人運動会を定期開催、最近はお手玉がお気に入り。かつお節が大好きで、最近は夜一緒に寝てくれます！ふわふわのしっぽと、寝ると白目で舌がちょこんと出る姿がたまらなく可愛い子です。これからも元気いっぱいに育ててね！

松波総合病院柔道部からのお知らせ



松波総合病院 合同練習会・柔道教室のご案内

西館1階多目的室(文武両道館)にて、下記の日程で練習会、柔道教室を行っております。参加方法や詳細につきましては下記よりご確認ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

合同練習

日 時 毎週火曜日・木曜日 18時00分～19時30分
※祝日は除く
連絡先 **058-388-0111(内線 51668)**
松波総合病院 柔道部監督 松井
※参加される方は、事前にご連絡ください。



柔道部ホームページ
参加方法や詳細はコチラ。

柔道教室

日 時 毎週火曜日・木曜日 16時00分～17時30分
※祝日は除く
対象者 柔道に興味のある小学生・中学生

柔道部Instagram
普段の練習活動や大会のお知らせなど投稿しています。ぜひご覧ください。



第79回国民スポーツ大会（大会愛称：わた SHIGA 輝く国スポ）

開催日:2025年10月5日(日) 会 場:湖北THGツインアリーナ(長浜伊香ツインアリーナ・滋賀県長浜市)
当院の柔道部から福井柚夏選手(看護部)が岐阜県女子チームとして出場し、ベスト16の結果を収めました。

MISSION カサマツ ～防災×冒険×友情の大作戦！～開催

防災・自然・文化をテーマとした岐阜県内外の中学生が交流するイベントが開催され、当院の柔道部が協力・参加しました。当日は参加者に護身術の基礎を実演交えながら分かりやすく指導しました。防災意識を高めるとともに、仲間との交流を深めるイベントとなりました。



第 73 回全日本産業別柔道大会

企業の枠を超えて業種別にチーム編成して開催される大会で、当院は初参加しました。当院の柔道部から3名が「医療・警備部門」として出場し、第3位の結果を収めました。



第 1 回文武両道杯岐阜県社会人柔道団体対抗大会

社会人を対象とした柔道大会を開催し、多くの方に参加いただきました。職場や地域を超えた柔道家同士の親睦を深め、岐阜県における柔道の普及振興と活力ある地域社会への貢献に寄与する1日となりました。

結 果

・男子重量級の部…第3位
・男子軽量級の部…第3位
・女子重量級の部…準優勝
・女子軽量級の部…優勝

